

## 地域銀行の営業広域化戦略

信金中央金庫 品田雄志

地域銀行の間で、本店を置いている都道府県以外に進出し、貸出を強化する動きがみられる。地域銀行における店舗網の推移をみると、2005年度あたりから、主に首都圏や東海、近畿といった都市部を中心に、店舗数が増加している都道府県がみられる。他県への進出に伴い、地方銀行においては特に、貸出金に占める他県貸出の比率も上昇傾向にある。

背景には、地元経済が伸び悩む中、拡大を維持しなければならない地域銀行側の事情がある。国立社会保障・人口問題研究所がまとめた『日本の都道府県別将来推計人口』（平成19年5月推計）によれば、都道府県によってはすでに人口の減少が始まっているうえ、今後も地方を中心に人口の減少は続く見込みである。広域化戦略は、縮小傾向にある地域経済の中で業容の拡大を続けるための方策と考えられる。地域銀行にとっては、他県への進出を利益率の向上に結びつけることが課題となる。

本稿では、地域銀行の営業広域化戦略の現状を踏まえたうえで、広域化が与える影響について考察を加える。